講習会プログラム

講習 A～C のワークショップは３月２日に対面講習で行います。
講習 D～F はオンデマンド形式です。３月３日から１６日まで、
いつでも３つの講習を受講できます。

ワークショップ：講習 A・B・C（対面講習のみ 配信なし）

◆講習 A

タイトル：音楽療法実践のためのキーボード即興演奏の基礎
～クリニカル・キーボード入門～
講　　師：小沼 愛子（おぬま あいこ）
講義概要：
本ワークショップは、音楽療法セッションの中で音楽を機能的に利用する方法を楽しく学べるキーボードを使った即興演奏の入門講座です。即興演奏の仕組みを分かりやすく解説し、音楽療法士が自分で考え音楽を組み立てることが出来るスキルを養うことをサポートする内容となっています。
講師のセッションビデオを用い、子どもから高齢者を対象とした音楽療法における即興演奏の実例を通して、実用的な音楽の使い方と即興演奏の基礎を学びます。受講者の音楽知識と演奏技術をどのように実践的な音楽即興につなげるか、即興演奏に苦手意識を持ってしまうのはなぜか、それを克服するためには何をするべきなのかなど、音楽療法士の多くが出会う悩みとそれらの克服方法も紹介します。
講師がバークリー音楽大学音楽療法学部の学生を対象に6年に渡り開催した特別授業“Clinical Improvisation on the Keyboard”を基にデザインされており、 バイエル
終了程度以上のピアノ技術ならびに基礎的な音楽理論の知識がある方にご参加いただけます。

講師プロフィール：
小沼　愛子（おぬま　あいこ）
音楽療法かけはしの会・Music Fits Japan・音楽療法リカレントスクール代表
https://www.musicfitsjapan.com・https://www.mtkakehashi.com
バークリー音楽大学音楽療法学部卒業。乳児から高齢者を対象に音楽療法士・講師として活動。2006 年、米国マサチューセッツ州ボストン市の総合型高齢者施設にて新音楽療法プログラムを設立、常勤ポジションを確立し勤務した。2011 年よりフリーランスとなり、ボストンでの実践を継続しながら、音楽療法士・学生を対象としたスーパーバイザー、コンサルタント、セルフケアコーチとして、音楽療法士・講師の育成・継続教育に携わる。幅広いアプローチと実践経験を活かし、従来の枠に囚われない音楽療法・教育を提供できる人材育成に注力している。

◆講習 B

タイトル：セラピストに必要な笑いとユーモアのすすめ
～インド笑いヨガで心技体トレーニング～
講　　師：梅谷　浩子（うめたに　ひろこ）
講義概要

笑いヨガは無条件の笑い・理由無き笑いとヨガの呼吸法(プラナヤマ)を組み合わせたもので、ユーモア・冗談・コメディに頼る事なく、誰でも笑うことができる優れたエクササイズです。

今、2 人に 1 人が癌を発症すると言われる時代です。ある書物にて書かれていた言葉で、「江戸時代には日本人はもっと笑っていた」と言われます。数多くの地震や自然災害に見舞われ、大きな戦いにも敗れ、豊かな時代と言われた現代では心の病を発症する人も増えています。私達は笑えてないのです！笑いにくい時代だからこそ笑う！本当の笑いも、無条件の作り笑いの笑いも、脳は見分けがつきません。

今回の講座の目的は、受講者自身の生活にもっと多くの笑いを取り入れることです。セラピスト自身が笑っていなければ、心の平穏を保てなければ、対象者に寄り添う音楽活動はできません。毎日理由無く笑うため、笑いを知ることで私達自身の身体・精神・感情そしてスピリチュアルな幸福を維持することができるでしょう。

この講座で得られることは、

＊笑いを知る

＊笑うことを学ぶ

＊笑いに生きることを学ぶ

人間は定期的に笑っていると行動や態度の変化が自然に訪れます。

より優しく愛情を持ち、寛大になっていくのです。

あなたが笑えばあなたが変わる！

あなたが変われば世界が変わる！

共に笑いを学びましょう。

講師プロフィール

梅谷　浩子（うめたに　ひろこ）

日本音楽療法学会認定音楽療法士、兵庫県音楽療法士。笑いヨガインターナショナル　ティーチャー、アンバサダー称号をインドにて創始者より認定。医療・教育・福祉の分野で音楽療法を実践、後進の指導にも力を注ぐ。2008 年、兵庫県知事より県民ボランタリー賞を受賞。兵庫教育大学において教材研究を行い、DVD「歯磨きソング」（2013 年、2014 年）を作成。兵庫県内の特別支援学校・福祉施設・病院・学校に無償配布し、実演や講演活動も実施した。

笑いヨガについては以下の動画もぜひご覧ください。

https://m.youtube.com/watch?v=yMMR1If71Qo

「笑いヨガ」紹介動画　「世界に広がる笑いヨガ」

◆講習 C

タイトル：絵画療法やコラージュ療法を体験してみませんか
講　　師：後藤　浩子（ごとう　ひろこ）
講義概要

絵画療法やコラージュ療法は、音楽療法と同じ心理療法・芸術療法のひとつと言えるでしょう。心理療法では言語を使うものが多い中、絵画療法も音楽療法も非言語の方法を用いるという点が共通していると思われます。

私は児童相談研究所やスクールカウンセラーの活動では、音楽療法やカウンセリングの他、遊戯療法や箱庭療法、描画療法やコラージュ療法などを通して子どもたちや親御さんと関わってきました。また音楽療法士養成コースのある大学や音楽大学では授業の一環で、心理療法の体験として学生とこれらの療法を経験してきました。美術や絵画活動が専門ではない学生たちは、自分を表現したりすることに対して自由になっていたと思われます。また、ことばを媒介としないかかわりの大切さやその力を再認識できる時間になっていたと思います。

このワークショップでは、理論を学ぶというより、絵画療法、主にスクイグルとコラージュ療法を体験して、じっくり楽しんで味わっていただく時間になるようにと考えています。またコラージュ療法から派生して、プロの技などを借りることの面白みやありがたさを体験して音楽療法に活かすヒントを見つけてくださったら幸いです。

体験１．スクイグル
体験２．コラージュ療法

ご参加の方は、以下のものをご持参ください。

・鉛筆（２B～４B）
・消しゴム
・サインペン（名前ペンとかラッションペンとか）１本
・はさみ・のり（どんなのりでも結構です）
・彩色できるもの（色鉛筆、クレパス、クレヨンなど）
・切り取ってもいいもの（雑誌、お気に入りのものがのっている印刷物、広告の紙、チラシ、新聞紙、カタログ、写真、案内の紙、フライヤ―など）

講師プロフィール

後藤　浩子（ごとう　ひろこ）

聖和女子大学教育学部幼児教育科・大阪音楽大学短期大学部音楽専攻卒業。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科障害児教育講座修了。

聖和大学付属幼稚園教諭及び児童相談研究所助手時代、1977 年より山松ミュージックセラピィ研究グループに参加。いずみ病院（沖縄県）で音楽療法を実践現した後、現在身体障害者デイサービスセンターや高齢者施設で音楽療法を行い、公立小学校でスクールカウンセラーとして勤務。相愛大学・関西学院大学・京都音楽院などで「音楽療法」の講義、大阪総合保育大学で「障害児保育」の講義を担当。日本音楽療法学会認定音楽療法士・臨床心理士・公認心理師。

講義：講習Ｄ・Ｅ・Ｆ　（オンデマンド配信）

◆講習Ｄ

タイトル：死別の悲しみと求められるグリーフケア
講　　師：坂口　幸弘（さかぐち　ゆきひろ）
講義概要
　日本社会は、いまや年間 150 万人以上が亡くなる「多死社会」を迎えており、こうした多死社会は、その死を悼む人も必然的に多くなることから「多死別社会」であるともいえます。死別による悲嘆（グリーフ）は多くの場合、自然で正常なストレス反応であり、それ自体は病的なものではありません。死を悲しみ、悼むということは、亡き人との深いつながりが、たしかにそこに存在したことの証でもあるのです。とはいえ大切な人との別れは、遺された者の心身に深刻な影響を及ぼすこともあり、死別による悲しみを抱えた人への支援、いわゆる「グリーフケア」への社会的関心が高まっています。死別体験には個人差が大きく、遺族のニーズやリスクに応じた多層的なケアが望まれます。グリーフケアは精神保健の専門家のみが担うものではなく、身近な人によるインフォーマルなサポートから治療的介入まで、さまざまな立場で果たすことのできる役割があります。本講義では、死別に伴う悲嘆とそのケアの必要性を確認したうえで、求められるグリーフケアについて考えます。

講師プロフィール
坂口　幸弘（さかぐち　ゆきひろ）
大阪大学人間科学部卒業後、同大学院人間科学研究科博士課程修了、博士（人間科学）。日本学術振興会特別研究員などを経て、現在、関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授。同大学「悲嘆と死別の研究センター」センター長。専門は臨床死生学、悲嘆学。死別後の悲嘆とグリーフケアをテーマに、主に心理学的な観点から研究・教育に携わる一方で、ホスピスや葬儀社、保健所、市民団体などと連携してグリーフケアの実践活動を行ってきた。

著書
『自分のためのグリーフケア』（創元社、2023 年）
『増補版　悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』（昭和堂、2022 年）
『喪失学－「ロス後」をどう生きるか？』（光文社新書、2019 年）
『死別の悲しみに向き合う－グリーフケアとは何か』（講談社現代新書、2012 年）
『グリーフケア－見送る人の悲しみを癒す～「ひだまりの会の軌跡～』（毎日新聞社、2011 年）

◆講習 E

タイトル：高齢者心理学の最前線：高齢期の幸福には何が重要なのか？
講　　師：増本 康平（ますもと　こうへい）
講義概要
　人生の最後、幸福であるために何が重要なのでしょうか？
　高齢期は誰しも、得るものに対して失うものの割合が多くなる時期です。例えば認知機能については、年を重ねるにつれ多くの人が記憶力の低下を実感します。このような衰えを予防するために努力することは大切です。ですが、年齢による衰えは必然でもあります。そのため、老いに逆らうのではなく老いを受け入れ、衰えにいかに適応するかを考えることも重要になります。
　本講義では心理学、老年学が明らかにした最新の知見をもとに、老いることによる損失を最小限に抑えるための方法と、生涯にわたる発達と幸福な老いを実現するヒントについてお話ししたいと思います。
　私は音楽を聴いて楽しむ側で、音楽の専門家ではありませんが、高齢期の幸福を実現する上での音楽のさまざまな可能性についてもふれたいと思います。

講師プロフィール
増本 康平（ますもと　こうへい）
神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授、神戸大学ウェルビーイング先端研究センター副センター長。
2005 年大阪大学大学院博士課程修了。博士(人間科学)。
大阪大学助教、 島根大学講師を経て 2011 年神戸大学に着任。2018 年スタンフォード大学長寿センター客員研究員。著書に『老いと記憶 加齢で得るもの、失うもの』(中央公論新社、2019 年啓文堂新書大賞)、『老いのこころ』(有斐閣)など多数。

◆講習 F

タイトル：『音楽療法士のための著作権の話』
講　　師：平野　夏子（ひらの　なつこ）
企　　画：近畿支部倫理委員会

講義概要
　音楽療法を実践するときに、私たちは対象者のことを理解して、プログラムを考え、選曲し、如何に展開していくか日々努力していることと思います。その中で倫理の問題は常に頭をよぎり、倫理的に逸脱してはいないか心を悩ましているのではないでしょうか。また倫理の問題は特にコロナ禍以降、Web 上でのやりとりなども増えたことから時代の流れとともに変化していくことを痛感しておられるのではないでしょうか。

その中でも特に著作権については、学んでも学んでも難しく、ご自分の活動に足踏みをしたり、ストレスを感じておられることと思います。

この度日本音楽療法学会倫理委員会のメンバーが『音楽療法士のための著作権の話』というパンフレットを作成し、そのパンフレットは2025年2月から日本音楽療法学会公式ホームページの『マイページ』で皆様に見ていただくことができるようになります。そこで今回作成者を代表して平野夏子先生に説明していただき、理解を深めたいとこの講習会を企画いたしました。近畿支部の倫理委員会のメンバーが日々実践をしている中で疑問に感じていることなどを具体的に平野先生に質問して、それを受けて説明していただく時間になっています。

皆様、是非ご覧ください。この講習会が開催される時にはマイページから見ていただけますので、疑問点などおもちになりながらご参加くださると幸いです。

講師プロフィール

平野　夏子（ひらの　なつこ）

東京藝術大学音楽学部楽理科卒。在学中より障害児領域で音楽療法の実践を始め、その後、高齢者・障害児者・精神障害者を対象に音楽療法を実践。現在、東光会東所沢病院リハビリテーション科勤務。教育実践では、国際音楽療法専門学院非常勤講師、日本福祉教育専門学校社会福祉学科音楽療法コース専任講師を経て、現在、東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科に実務家教員として勤務。2021年11月コロナ禍での日本音楽療法学会関東支部地方大会（埼玉）の実行委員長を務める。現在、日本音楽療法学会倫理委員会副委員長、関東支部副支部長。